

NEW

浮流星

第3号

発行:2003.5.18
編集:SUNAK FILM
発行 MAKER

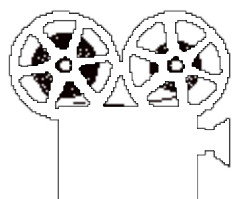
SUNAK FILM MAKER

Eメール:planet-sunak@ml.reset.jp

実験映画への誘い



アートフィルムフェスティバルvol.2



SFG上映会 映像レボリューション

会場:なかのZERO視聴覚ホール 2003.5.18

主催:SUNAK FILM GUILD/キノサーカス

特集フォーラム「アブストラクト アニメーション」

田端志津子	"Three Minutes Out"	video 3mins 2000
	"むすんでひらいて"	video 3mins 2001
泰良知恵子	"FILMS on the Film"	video (based on 16mm) 1min. color 2001
大島慶太郎	"Liquid Particles"	16mm 2mins part color silent 2002
	"FILM-FILM"	16mm 2mins part color silent 2002
手嶋渉	"1/288 day"	8mm 6mins 2003
鈴木卓也	"Colored Hearing"	16mm 4mins color 2002
	"Rill"	16mm color 4mins 2002
吉永晋吾	"THE BLIGHT ON LEAF"	16mm 8mins 2003
原田剛	"WEISSFILM (Whitefilm)"	16mm 7.5mins color silent 1996

関口和博・特集プログラム

○△□	8mm 2mins 1982	RED	8mm 2mins 1983	STEP	8mm 3mins 1980
Igl	16mm 3.5mins 1988	HATE8	8mm 3mins 1991	MEMORY OF CELL	16mm 4mins 1992
untitled2001	8mm 7mins 2001				

1978年よりアニメーションの個人制作を始める。1988年上海国際アニメーションフェスティバル入選。1994年と2000年の広島国際アニメーションフェスティバル入選。言葉や人種の違う人間にプリミティブな驚きや感動を伝えたいと思い。抽象的なアニメーションを作り続けている。

A プログラム「不特定の帰結」

中吉 功 なかよし いさお：北海道千歳市「とにかく映画が好き！」

「放課後」7分46秒

ある男子生徒が、女子生徒にラブレターを渡すが…。思春期における「自分の存在価値」や「生き方」「生きる意味」「居場所」etc…。そんな苦悩の中（むなしさや空虚感）、少しだけの「幸せ間」みたいなものを表現した。の様々な想いを込めた作品。

北川 陽稔 きたがわ あきよし：東京都調布市
「LOSTBALL」11分

東京郊外のニュータウンと呼ばれる地域で映画を撮ってみようと思った。撮影場所である多摩ニュータウンは、自宅から電車で数駅のところにあり、以前から特に用事もないのに、その駅で降り、街を歩くことがあった。どこか息苦しく、しかし自分の故郷（札幌市）を思わせる不思議な光景だった。そのニュータウンで、いくつかのシンボリックなモチーフを自分なりに組み合わせてみた。

岡田 修太郎 おかだ しゅうたろう：兵庫県三木市
「実験映画は観る人によって、それぞれの捉え方があって、監督（自分）でも捉え方が変わってくる。この捉え所のないところが実験映画のいいところか。」
「MUSCLE DIVER」2分57秒

画面を通して監視しているかのような男。走る男。監視する男。イメージ群のシークエンス。そして画面ごしの「次元」を超えた？かのような銃光。しかし、すべてが「虚構」「フェイク」「遊び」なのだが…。

稲葉 千恵美 いなば ちえみ：東京都「…。」
「コマゴマとしたくり返し・ちがうものの同じあつまり」7分
ちょっとずつちがうものを集めて、繰り返したら…。

石黒 加奈子 いしぐろ かなこ：東京都稲城市「意外性とかawaiiいものについて、追求していきたい」
「ね家」5分
粘土とTVと猫と家の話。

岩間 芽里 いわま めり：東京都渋谷区「…。」
「うつつ・ささやかに・録音」12分
電車でのゆめうつつ／ささやかな御馳走をとります／地図を撮って、雑音を録る

千葉 久美子 ちば くみこ：東京都立川市「本格的に映像作品を作り始めたのはごく最近で、まだまだ未熟な部分が多いですが、よろしくお願いします。」

「PARTS」3分

テーマは「言語と文字」。人はあらゆる形で言語の要素を外から取り組み、自分の言葉として再生している。しかし、その要素が壊れた時、人はどうなるのか…。
※ 2003年阿佐ヶ谷美術専門学校基礎課程修了制作。

小林 秀雄 こばやし ひでお：東京都中野区「量産タイプで安い割に瞬発力がある。…が、スタミナ不足で練り込みが甘い。」

「Algorithm」5分

機動性重視で軽装備が信条なので、5分以上の作品は作れないとみた！破壊された映像。しかしそこにはアルゴリズム（計算方式）が存在する。本来隠さなければならぬものを見てみよう。

堀 朋子 ほり ともこ：千葉県千葉市「映像を作ったのは今回が初めてだけど、『映像』好きです。特に8mmは何とも言えない味があり、大ファン！！な私です。」
「頭痛」3分8秒

私は海のことだけ考え、自転車を走らせるが、ついてみると海にはショベルカーが…。現実には想像できないものと痛感するばかり。

頭の中は自分の頭だというのに意外なものが浮かんでくる。なので、考えないで手に触れた順にフィルムをくっつけてみた。

谷岡 昭宏 たにおか あきひろ：東京都武蔵野市「映像に感受性や好奇心、知識をぶつけ表現することを求め、意欲的に活動している」
「reflection」3分

8mmカメラで好奇心のまま撮影したので、そのまま映像に反映された作品。

東 祐作 とう ゆうさく：東京都練馬区「自分の持ちうるアイデアをできる限り詰め込んで、この映画はどうやって撮ったのだろう？視覚的に楽しめる映画、こんな映画もあるんだ？と受け止められたら、成功！」
「INSIGHT」4分46秒

人の心の深さ、神秘性、苦悩といったものをabstract imageで表現。人が前向きになり、一歩踏み出すまでの過程をpositiveに描いている。映画の原点を思い出せる作品。

B プログラム「未知の選択肢」

滝口 浩史 たきぐち こうじ：東京都国分寺市「現在は映像表現は休止中ですが、写真や絵画表現を現存していますが、アニメーション作品をまた、再開しようと思っています。表現手段だけにとらわれずに、作品を通じて、

見る人たちに何かを伝えたらいいなと思っています。」

「風にゆられて」5分

赤ちゃんが眠っていると、風が吹き部屋の戸を開け、夢の世界へ誘ってくれる。犬の声によって目を覚めますが、夢（アニメーション）の世界が、少しでもその夢を見る人たちの中に安らぎを与えてくれたらと思い、制作した。

※（株）グループ現代主催：映画ガリバント、プレイヴェントショートフィルムコンペティション グランプリ作品。

江波戸 遊士 えばと ゆど：東京都町田市「…。」

「無題」8分

矢武 彩子 やたけ あやこ：埼玉県鶴ヶ島市「これから、独自の世界を展開して行こうと思います。お楽しみに。」

「1/f・等高線」3分

不規則に変化するゆらぎの中間、f分の一 ゆらぎ。意外性と期待性を持ったもの。処女作。

「等高線」：地図上で、標高の等しい地点を連ねた線を等高線といいます。

半田 彩子 はんだ あやこ：東京都大田区「大切なものすら忘れてしまう時がある。それに気付いて、改めて強く想う。大切なものは、忘れたくないのに。大切なものを、大切に想っていたいのに。大切なものを想いかえすきっかけとして、作品をつくっています。」

「在る日々」5分45秒

日々生きていく中で、幾つかの選択肢の中から1つを選ぶことを繰り返してきことだろう。そこで選ばれた選択肢にも、今が続いているのではないか。そこに、存在する時間、そこに存在する自分を想う。そして、今を幸せと思うことは幾らでもできるのです。

執行 真生 しぎょう まさき：東京都杉並区「2000年大学を卒業するとともに、バンタン芸術学院インディペンデントムービーコースを卒業する。その後、渡米してL.A.New York Film Academyに入学。在学期間中"Symphony For Night Snails vol.1-Death-"がドイツハノーヴァー映画祭の招待を受ける。卒業作品の"Alice & Pip"はユニバーサルスタジオにて上映。現在は、インディーズバンド"Bluce Ace"のビデオクリップ制作などを努めている。

「Symphony For Night Snails vol.1-Death- vol.2 -Life-」8分50秒

3部作の1作と2作目、(vol.3-Sex-は未完)"ストーリーもの"というコンセプトは持ちつつ、イメージを言語領域に還元しない、イメージ＝映画言語での物語を目指した作品。1作目は自己を見失った少女の自殺に至るまでの血液の脈動感を描いた作品。※ドイツハノーヴァー映画祭の招待作品。2作目は現在の作者の老いること（＝時を刻むこと）へのイ

メージを映像化した作品。

砂川 達夫 すなかわ たつお：東京都渋谷区「6歳でスチルカメラ、10歳で8mmムービーカメラを手にして依頼、ず〜っとフィルムにこだわり続けている、フィルム派。」

「実験」9分

特殊フィルターの多用と効果音により、幻想的で恐怖感のある映像に仕上げた、実験的な映像。

Bプログラム「虚無の都市」

太田 曜 おおた よう 実験映画作家

1953年東京生まれ

1974年日本大学芸術学部美術科（彫刻専攻）入学

1977年～1987年パリ第8大学映画科でギィ・フィマン、クロード・エジックマン、フランクフルト、シュテーデル美術大学でペーター・クーベルカに実験映画を学ぶ。1988年～東京造形大学、日本工学院専門学校芸術学部、他非常勤講師

1997年～実験映画の研究と普及のため MALTESE CROSS E VISION を設立。

映画が画面上に生成する"非日常的空間と運動"による映画、非物語的展開の映画が作り出す"映画の"時間経過を"見る"映画を制作。

実験映画の制作と平行して"実験映画／個人映画／自主映画"等の非映画産業的映画の上映にも関わる。MALTESE CROSSE VISION 代表。2003年3月、第五回日本の実験映画フランス巡回上映でフランス各地で上映講演を行なう。

「UNE SUCCESSION INTERMITTENTE（ユンヌ シュクセセッション アンテルミテント／間欠的連続）」16mm color silent 2分 1980 パリのアパルトマンの窓からは、向かい側の建物の裏、むき出しの外壁が見えていた。そして、その上の空は生まれ育った東京のそれとはまったく違っている。一日眺めていても、雲の動きを人間の目が確認することは出来ない。映画のインターバル撮影は、人間の視覚そのものを拡張したと言える。写真の発明が瞬間的な運動を捉えたように、映画は現実の時間を圧縮したかのような世界を見せてくれる。インターバル撮影は科学映画等でしか普通は使われない。しかし、劇映画ではモンタージュを通して物語を進行させる手段として時間を省略することが行なわれている。アンディー・ウォーホルはスリープ、イート、エンパイア等の作品で時間の省略や、いわゆる編集（モンタージュ）をしない映画を発表し当時センセーションを巻き起こした。映画が誕生（1895年）してから68年後、1963年のことだった。

鄭相龍 チョン サンヨン

1969年韓国生まれ

日本大芸術学部芸術研究科映像芸術専攻2年

「drawing」16mm color 3分 2001 都市人の日常生活。

水由 章 みずよし あきら

1961年札幌生まれ。映像作家、ミストラル・ジャパン代表、F's編集長・発行人。1980年代半ばから個人映像作品の制作・上映活動を行う。映像ネットワークVIEW、パーソナルビジョン2001などのフェスティバルに中心メンバーとして関わる。現在はスタン・ブラッケージ作品を連続して日本で紹介している。

「或る情景・都市河川」16mm B&W 6分 SILENT 1993
井の頭公園を水源とし、隅田川へ注ぐ神田川。浅草橋、江戸川橋、水道橋などはこの川に架かる橋の名称である。東京で生活する上で何度も出くわすこの小川に何となく愛着を感じていた。そして江戸庶民の生活用水という本来の使命を全うし終えた小川の姿をカメラに収めたい衝動に駆られたのだった。片道約25キロにも及ぶこの川を何度か往復するうちに、体から吹き出たたくさんの汗、三脚を抱えた右肩のあざ、足の指にできた水ぶくれ、などが自己流の神田川への接近方法だった。

原田 剛 はらだ ごう

1963年、東京生まれ。1993年～1999年まで、ドイツ・フランクフルト、シュテーデル・シュレーにてペーター・クベルカ（Peter Kubelka）に師事、1999年マイスター・シューラー修得。現在東京に在住。

「FFM (Frankfurt am Main)」16mm, 5min.40sec., color, silence, 1996-1998

撮影地：ドイツ・フランクフルト 撮影方法：2重露光。シーンの順番は基本的に撮影段階で現地に決定。

「WEISSFILM (Whitefilm)」16mm, 7min,30sec., color, silence, 1996[この作品は、アブストラクト アニメーション で上映]

使用素材：す抜けフィルム80メートルとホワイトシリコン

作製技法：手作業でシリコンをフィルム上に塗布。後の編集作業を意図しないで作製。

末岡一郎 すえおか いちろう

1965年生まれ。1985年から短編映画製作開始。現在までに73作ほど制作。実験映画から見た映画史をテーマにしたクリティカル・フィルムを制作している。国内外での上映多数。2002年にはカナダの映画祭「メディア・シティ8」にて特集上映されると共に、審査員も担当する。また、映像キュレータとして日本の作品を海外に紹介している。近年は実験映画を歴史的観点から見直すことに主眼を置き、ファウンド・フッテージを用いて作品制作を行っている。現在、FMIC（フィルムメーカーズ・インフォメーション・センター）の設立を準備中。

「Ich bin der Welt abhanden gekommen」7mins, 16mm, silent, B/W, 2003 私はこの世に忘れられ

名も知れぬアマチュア・シネアストが撮影した1934年の京都の光景は、最悪の保存状態のためにビネガー・シンドローム（加水分解）に陥っていた。フィルムは崩壊寸前だった。

タイトルは19世紀末のロマン派の詩人、フリードリヒ・リュッケルトの同名の詩から引用した。リュッケルトの喪失への諦念は、確かにロマン主義的ではあるが、一方で消え行く映画＝フィルムの事実を語っているように思えてならない。たぶん、このフィルムは誰にも顧みられる事も無くただ消滅していくのであっただろう。「映画」は永遠の記録に在るのではなく、常に忘却と隣り合っている。わたしたちが知る事のできる映画とは、砂のひと粒ほどもないのかもしれない。

宮崎 淳 みやざき じゅん

1965年生まれ。東京造形大学卒業。物語りに拠らず、視覚的快楽に根ざした作品を作り続けている。『Ring Android』（87）がイメージフォーラム・フェスティバル88で大賞を受賞。「真空氷」が

「BORDER LAND」16mm color 15mins 1999

音楽：足立ハルキ、古谷弘毅、入谷ラミエル

撮影者（ハンター）である僕の、今回の獲物は"辺境"である。それは日常のすぐ隣りにある。そこでは常に何かが終わわり、そして始まっている。幼い頃から、僕はそのことに強い印象を覚えてきた。とにかく、まずそこに立つこと。その空気を呼吸すること。鼓動を、その場所に馴染ませること。動きすぎると、相手の見えるわずかな変化を見失いかねない。そんな風にして撮影（ハンティング）して集めたのが、この作品である。

(M.J.)

相内啓司 あいうち けいじ

1949年北海道生まれ。1973年東京芸術大学美術学部卒業。1985年東京国際ビデオ・ビエンナーレ審査委員特別賞。神奈川県芸術祭映像コンクール・TVKテレビ特別賞。1986年神奈川県芸術祭映像コンクール優秀賞等、受賞多数。阿佐ヶ谷美術専門学校専任講師、日本大学芸術学部、多摩美術大学非常勤講師。

「Steps through the forest・森の足跡」ビデオ2001年 6分

現前する世界像の記録とその再・現前性がテーマ。この作品の中で与えられた恣意性はフレームサイズ、フォーカス、持続時間のみである。この作品の映像を構成する主体はむしろ対象世界の側にある。恣意的に分節化される以前のある種の気配をともなった世界の現前と

その減衰がそれである。 私たちは森の中をさまようように現れては消えてゆく足跡という人の指標をただ見つめるのみである。 イメージは曖昧な欠落として意識に浮上する。「森の足跡」は「映像」のメタファーでもある。

C プログラム「アブストラクト アニメーション」

田端志津子 たばた しずこ

1972年札幌生まれ。2000年イメージフォーラム映像研究所第23期本科卒業。現在、アニメーションを中心に制作中。

「three minutes out」2000年オーバーハウゼン国際短編映画祭（ドイツ）招待上映、2001年イメージフォーラムフェスティバル奨励賞

「Three Minutes Out」2000／8ミリ／カラー／3分

協力：宇野学、高橋しのぶ、森谷彩子、青木めぐみ
8ミリのフィルムは1本で約3分あります。この3分の中で、多重の構造をもった作品を作ろうと思いました。この作品には3つの時間の流れがあります。紙の中の時間、撮影中の時間、あと、作品が上映されるときに時間。フレームの外と中で時間のずれが出るのを目に見える形で表したかったのです。（T. S. ）

「むすんでひらいて」 2001／8ミリ／カラー／3分

出演：鈴木良枝 協力：森武志、森谷彩子

「あなたの子供時代が楽しいものであったとしても悲しいものであったとしても、それはもう過去の話。前に進むしかないのです。」私はこの作品を彫刻のような感覚で作りました。要素をなるべく少なくしてひとつひとつの音や動きを際立たせるように意識しました。（T. S. ）

泰良知恵子 たいら ちえこ

1981年、神奈川に生まれる。高校でグラフィックデザインを学び、2001年より阿佐ヶ谷美術専門学校で映像制作を始める。2003年、同校卒業。

『FILMS on the film』16mm 1分 color 2001

実写とペイントが織り成す不思議なアニメーション。

大島慶太郎 おおしま けいたろう

1977年 北海道釧路市生まれ現在、教育大学札幌校大学院に在籍。映像制作とともに札幌を中心に上映会、ワークショップなどを展開する。

2000 [篠路アートプロジェクト/シノロ上映会] 篠路倉庫
2001 [個型映像館vol.1すみに置けない上映会] まる
場会館
2002 [個型映像館vol.2 Another Screen] 学校を
めぐって出張アート 第2回 帯広柏葉高等学校 [個型映
像館vol.3 Animation Look] 学校をめぐって出張アート
第3回 札幌清田高等 「Liquid Partcle」16mm 2分 partc

olor silent 2002

現像時の操作により薬剤の粒子や現像液の流れを直接フィルムに焼き付けた作品。視覚化された粒子や液体の流れに平行して、ナラティブな要素の映像が浮かび上がる。

「FILM-FILM」16mm 2分 partcolor silent 2002

35mm、16mm、8mmの様々な映画のフィルム片を直に未露光フィルムに焼き付けた作品。通常はスクリーン映し出されることのないサウンドトラックやパーフォレーション、フィルムのフォーマットの違い、またモノとしてのフィルムのねじれ、重なりなどが光と影の動く映像となる。

手嶋 渉 てしま わたる

1972年生まれ。1999年 第22期イメージフォーラム映像研究所修了。1999年より映像制作開始。現在、東京在住。

「1／2 8 8 day」8mm 6分 2003

フィルムからコマという概念を取り除き、フィルムという物質以外のものでイメージを上映するという試みによって生まれた作品。

鈴木卓也 すずき たくや

1978年宮城県生まれ。2000年阿佐ヶ谷美術専門学校入学と同時に映像製作開始。現在は音（聴覚）と映像（視覚）の関係をテーマに製作をしている。

「COLORED HEARING」16mm, color, sound, 4分 2002

colored hearing（色聴）とは例えば「黄色い声」のように音による刺激によって色覚を伴ってしまう現象のことを言います。（一万人に一人の割合で起こる現象だそうです。）この作品ではサウンドトラックを含むフィルム全体に画像（物質）を直接はりつけることで映写機の機能を介し「音そのものを見る、または色を聴く」ことができます。フィルムの物質性を通して拡張される聴覚と視覚。そしてそれらの密接な関係ならびに曖昧な境界を表現した共感覚映画です。

「Rill」16mm color 4分 2002

吉永 晋吾 よしなが しんご

1976年生まれ。東京造形大学デザイン科卒業

2001年ZOKEI賞 2001年イメージフォーラム、ヤングパースペクティブ上映

「THE BLIGHT ON LEAF」16mm 8分 2003

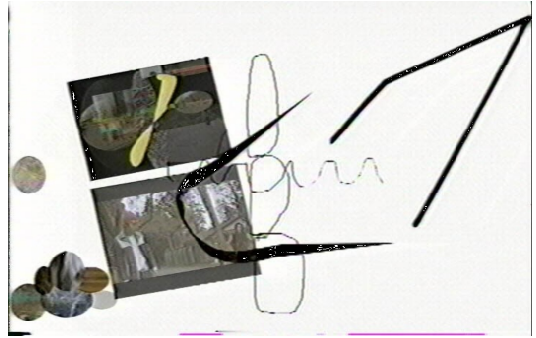
「BLIGHT」の単語に・黒穂病、べと病・悪影響・荒廃などの意味がある。この作品にはこの意味が当てはまる。フィルムには自家現像の過程で出来たムラや傷があり、更に8ミリから16ミリへブローアップした時に付着した毛やホコリ、ぶれが...それは一コマ一コマの葉に付着した病気である。目を凝らして検診してみてください。

高水聡一郎 World 3 「複雑性の抽象映画」

1976年東京都国立市に生まれる。映画美術の職人であった祖父の影響もあり、1996年より独学で映像をつくり始める。同時期に父の故郷である東京の郊外に移り住み、その地で数十作の映画をつくっている。2年後、仕事場を郊外から都心部に程よく近い場所に移し、この頃から量産メーカーの仕事もこなすようになる。翌年、ミニシアターでアンシアトリカルなフィルムの上映を行う。その映画は、付帯音にNat King Coleの曲が用いられていた。ジャズシンガーであった父親の影響を受けた作品であったと言えるだろう。更にその翌年、若手映像作家を育成支援する非営利的な組織 SUNAK FILM GUILD (S.F.G.) に参加。現在は、ディレクターを務めており、東京で上映活動を行っている。昨秋開催されたアートフィルムフェスティバルVol.1(会場：なかのZERO)では、新作が特集上映され、最近の作品は、主にデュプフィルムを用いてつくられている。

■なぜ映画を作るのかというきっかけや、今後について。

何で映画を作る、きっかけは、ちょっとしたことでした。つくり初めの頃は、友達の撮影したテープを借りてそれを編集したり見たりしていたが、その後、8ミリフィルムやビデオを使ってのワークショップに参加した。わりと小規模な所だったが、機材は8ミリカメラや映写機とかが揃っていた。あまり使う人がいなかったから、6〜7台の8ミリカメラを同時にまわしてみたりして…、それを1コマずつつなげて、見たり眺めたりしていました。編集室は、いつもフリースペースでした。当時はそこで仕事のほとんどをこなしていました。そこには、故寺山修司の実験映画作品集のビデオがあって、それを全部見た。今思えば、かなり影響を受けていると言えるんじゃないかと思います。つくり初めだっただけに。実験映画なんて言葉もこの頃、耳にするようになりました。仲間が、その編集室で、スタンブラッケージのドッグスターマンとか言うタイトルの映画やアブストラクトアニメーションの特集のようなビデオを見てた。当時、僕の興味はビデオやTVやカメラにありました。TVを分解したり、トリニグラフィってやつだったり、ビデオテープの磁気をいじったりとかしていました。フィルムの方は、前に複数のカメラで撮影したときの撮影済みフィルムがあったんで、それを切ったり、つないだり、塗ったりしていました。最近は現像も行うが、これが実におもしろかったです。ついこの間まで、量産タイプのラボに行っていたんだけど、そこでは毎日リーダーフィルムとかが処分されていた。今は、それらが欲しいと思っています。そんなフィルムやらをほかでも使えるようにして行きたいと思う。かといって、少し面倒そうだし、結構な量があった方が良さだろうし、場合によってはそれなりの準備が必要になります。探せば現像前のものも結構あるだろうし、ネガやポジもあるだろうからファウンドフッテージにはもってこいです。今後、僕の作品のスタイルが、どうなるのかはわかりません。(2003/03/28)



★相内啓司 映像インスタレーション

OUT FOCUSED CAMERA OBSCURA

生成する世界は物質と現象が重なり合う様相(aspect)として現前する。だが身体と意識(=他者の文化)に境界付けられた私たちにとって、ア prioriに「すべてを見る」という試みはつねに挫折する。この意識を持たない自動記述の映像装置は、私たちの意識の視覚的な現象面への介入と挫折のプロセスを模倣する。

日時：2003年5月17日(土)・18日(日)

17日13時〜19時 18日12時〜19時

会場：なかのZERO展示ギャラリー(地階2階)

※入場無料、どなたでも入場出来ます。

SUNAK星人 SOS SOS

イラク戦争は、アメリカと同盟軍の攻撃によりサダム・フセイン政権が崩壊し、アメリカの大義名分がはっきりしない、証明できないまま終わってしまった。そして、地球上では相変わらず権力と宗教が結びついている。

ジョンレノンはいマジンのなかで、「国境も宗教も無い世界を…」と歌っていた。

我ら、実験映画には、国境も宗教も無い！実験映画で世界を結ぶことが出来たなら…。と、思いながらアートフィルムフェスティバルを続けて行きたい。そして、若い作家たちを応援していきたいと願っている。 SUNAK星人